

カラッポのおうち

長瀬 やなせ
「カラッポのおうち」
の会 会報

2013年
4月14日(日)
創刊号

「カラッポの会」が誕生しました

こんにちは、はじめまして。私たちは「長瀬やなせ “カラッポのおうち” の会」(略称「カラッポの会」)と言います。2013年3月24日(日)に誕生しました。

「カラッポのおうち」は放射能被害にあった子どもたちのために提供された家です。

福島原子力発電所の事故で避難を余儀なくされた方々が、たくさんいらっしゃいます。放射線量の高い地域では外で子どもを遊ばせる場所になやんでいる家族もいらっしゃいます。埼玉県にも子どもを含めて、多くの避難者が来ています。そうした子どもを持つ家族が、子どもたちといっしょに休養や保養をする家です。場所は埼玉県の長瀬。観光地の近く「矢那瀬(やなせ)」という田舎にあります。小さい家ですが、ときどきSLが通る、山に囲まれた静かなところです(写真はカラッポの家の前を通過するSL車)。



「カラッポの会」はこの空き家をボランティアで管理し、くつろぎやすい空間にするために誕生しました。すでに、家の補修を終えて、まもなく入居可能になります。ぜひ、おいでください。応援してください。そして、たくさんの方が入会してください。みんなで、放射能被害を受けた子どもたちのために「大人ができること」を、ここからはじめましょう!



小コンサートで発足披露

チェルノブイリ子ども支援の仕事経験をもつ水彩画家の鈴木穂さんが「カラッポのおうち」のための展覧会を開催。3月24日には、会場(ギャラリー日比谷)で小コンサートがひらかれ、そのなかで会発足が披露されました。コンサートではバンデューラ演奏者・歌手のカテリーナさん、ケーナの清水康之さんとチャルンゴの鈴木龍さんのフォルクローレ演奏を聴きました。美しい歌声と心にしみる演奏にひとときをすごし、参加した会員、みなが心をひとつにしました。「カラッポのおうち」で、このようなすてきな演奏を子どもたちやその家族に聞いてもらいたいと思います。

★大人の気持ち

チェルノブイリ原発事故直前に生まれ、今は日本に暮らすカテリーナさんの歌声を聴いた。歌唱法は私がロシア民謡で聞いたある特徴をそなえ、うら若い女性の声でありながら、力と情感にあふれ胸に深々とせまる。▼合間に小さなスピーチがあり、フクシマの事故について彼女の思いがもたらされた。生まれてすぐに原発事故、現場から3・5キロの故郷プリピャチから避難、ウクライナを転々し、家族とともに日本へ移住。日本を第二の故郷ときめ、結婚、子どもも産まれた。そこにふりかかった再びの原発事故である。▼またこの地を離れるべきか考えたが「私は、この日本で歌手として生きていこうと決めました」と言い、次の歌につないだ。歌声がウクライナの大地からわきあがるとどろきにも聞こえ、私は熱くなつた。▼故郷を奪われた子や孫たちをまもろう。(管理人 S)

もうすぐ母家補修完了 カンパ大歓迎

秩父長瀬の春はいまが盛りです。この時期に間に合わせようと、2月から空き家の補修をしてきました。3月末の目標でしたが、床なおし、壁塗りかえ、トイレの取りかえ、ふすま張替など……ようやく、母屋の本体補修が完了しそうです。これから、最終大掃除をかけます。あとは、必要備品を整えていきます。「カラッポのおうち」とは、カーテン、洗濯機や台所、お風呂用品など、しばらくの滞在に最低限度必要な備品をそろえなければなりません。会員の皆さんに、カンパ、および備品などの提供をお願いします。中古車も一台必要です。まだ使えるが廃車にしようとしている？……それ、待った！物品カンパ大歓迎。お知らせください。

家主よりごあいさつ(1) =====

「カラッポのおうち」の家主杉村葉子よりご挨拶をいたします。

福島で、または県外で、生活を奪われ、不安に耐えながら生活しなければならない方々は、時間が経つにつれて、苦しみが増していくように思えます。家族の崩壊、健康への被害、誰のための安全基準なのか分からないようなものに振り回されたり、金銭的な問題、原発や除染現場で働く人たちの派遣労働の状況など、ご存知の通りです。子どもたちの健康も心配ですし、教育上も最悪の環境だと思いません。

一時、そのような場所を離れて、一息つき、子供を中心とする家族の将来に思いをはせていただけたらどんなにいいだろうと思って、カラッポの家を提供していきたいと

思っています。

私個人としましては、できるだけ、上手に、うまくほっておいてあげたいと思っています。

また私たちは今、原発から離れたところにいます。福島県の方々の気持ちをわかっているかどうかも心配です。家に来ていただき、一時の休憩場所を提供し、目的を達成するためにこれからいろいろ学んでいかななくてはいけないと思っています。

そして、ささやかなこの家にかかわることで、皆さんの日常に少し花を咲かせることができたら、それはこの家に来て休む方の心の中にも、同じようにきれいな色が宿るものと信じています。

(文章は「発足の集い」用に書かれました。次号に続く)

カラッポの会資料 =====

長瀬やなせ “カラッポのおうち” の会 会則

第1条 (名称) この会は「長瀬やなせ “カラッポのおうち” の会」(略称:「カラッポの会」)と称する。

第2条 (目的) この会は、放射能被害を受けた子どもたちのための家(「長瀬やなせ “カラッポのおうち」)の運営とサポートを目的とする。

第3条 (会員・会費) ①この会は、会の目的に賛同し協力する個人で構成する。②会費は、原則として無料とする。ただし、会の活性化に努力し、資金面で会を援助する会員は、有料会員1000円の年会費とする。

第4条 (活動) この会は、「長瀬やなせ “カラッポのおうち」を、放射能被害を受けた子ども等が休養する場所にするため、それぞれ、できる力をだし協力しあう。

第5条 (会報) この会は、会報「カラッポのおうち」をときどき

発行する。

第6条 (総会) 総会は、年1回事務局が招集する。総会では、次の事項を議決する。①年間活動報告および計画 ②予算および決算 ③会則の改正 ④事務局員の承認 ⑤その他、会の運営上必要と認められる事項

第7条 (事務局) この会の事務局は、有料会員有志で構成する。

第8条 (会計) ①この会の経費は、会費およびカンパをもってあてる。②「長瀬やなせ “カラッポのおうち」の利用料はすべてカンパとして会計収入とする。3. この会の会計年度は1月1日より12月31日とする。ただし、2013年度に限り2013年3月24日を開始日とする。

第9条 (大人の誓い) 放射能汚染被害から子どもをまもるために大人ができることをやります。

長瀬やなせ「カラッポのおうち」の会・事務局 2013年3月5日現在の募金高は、102,000円です。

◆連絡電話 090-8442-1364(杉村)FAX045-774-9282(鈴村)◆振込口座00210-9-53948 カリーナ横浜公演